

レンタルディング®で時代を拓く

AKTIO

AKTIO

July
No.29

Communication Magazine

■ AKTIO TOPICS

AKTIOが誇る技術を一堂に

建設・測量生産性向上展 CSPI-EXPO

新商品レンタルのご紹介

- 重量物吸着搬送機械「グラスワーカー」
- 「GeoMation 鉄筋出来形自動検測システム」

世界最高峰の高出力レーザーで
サビや塗膜などを除去

「CoolLaser®」デモの共同運営を開始

■ AKTIO NETWORK

道路舗装のプロとして極めた技術を世界へ
ワールド開発工業株式会社



KEY PERSON

に聞く

大型プロジェクトが続く、
関西地域における
AKTIOの取り組み。

大型プロジェクトが続く、 関西地域におけるAKTIOの取り組み。

コロナ禍の収束により小売業やサービス業の客足に回復がみられ、個人消費を中心に持ち直しの動きとなった関西経済。不安定な国際情勢やエネルギー価格等の上昇、欧米や中国の景気減速への懸念など、まだ先行きについての不透明さはあるものの、関西圏においては2025年大阪・関西万博開催、大阪IR計画、大阪駅北(うめきた2期)地区開発工事など建築の大型プロジェクトが進み、その期待感は大い。

関西最大級の整備工場である関西テクノパーク統括工場と、2022年グッドデザイン賞を受賞した大阪DLセンター、地域に根付いたサービスの基盤を強固にした今、AKTIOが関西経済の盛り上がりと共に実現できることは何か。

大阪にエンジニアリング事業部が初進出する際に所長として着任、今日まで関西エリアの成長を支えた鈴木純也上席執行役員に話を聞いた。

上席執行役員 西日本支社長 関西支店長

鈴木 純也

JUNYA SUZUKI

営業職からキャリアをスタートさせ、首都圏の大型プロジェクトで経験を積み関西へ。エンジニアリング事業部を大阪の地に根付かせ、関西テクノパーク統括工場、大阪DLセンターの設立等、AKTIOの西日本の事業拡大に貢献してきた“関西の要”。

KEY PERSON

に聞く

「鈴木上席が大阪に着任した当時のことをお聞かせください。」

1993年当時、当社のエンジニアリング事業部は名古屋までしか拠点がなく、JR東西線の工事が始まる際に大阪に拠点を置いた方がいいだろうという話になり所長として着任しました。当時は全国でも有数の大規模シールド案件が多数あったため、大阪・神戸・京都の各市営地下鉄工事といった現在の関西の生活を支えるインフラ工事に携わることができました。大手建設会社であっても、シールド工事は年に2、3案件。我々は日本全国のシールド工事に携わることができ、機械の選定から工事の計画までに対応する案件を複数こなしています。この経験値がお客様から選ばれる決め手となります。工事は経験と言っても過言ではありません。日本のインフラ工事は必ずその案件の経験者が入ることです。受注することができると、そういう人材がいなければ仕事を取れない。私たちAKTIOは多くの案件を通じて「経験者」を育ててきた会社。経験者が揃ったAKTIOチームはそういった部分でも建設会社のサポートができるわけです。

私は大阪に馴染みがなく、来たばかりの頃は標準語で嫌われるのではないかと



心配もしました。しかし、大阪のお客様は当社とタッグを組むことでシールド工事の案件を取ることができると期待を寄せてくれ、当社の設備や見積もり、計画についてしっかりと話を聞いてくれました。従来だと東京のエンジニアリング事業部との遠距離でのやりとりでしたから、これからは大阪で膝を突き合わせることができるという歓迎ムードもありましたね。私も1年ぐらい経つと東京よりも大阪で仕事をする方がいいなと思うようになりました。何せ大阪は義理人情に厚い。いい関係が作りやすい土壌です。

「数々の大型プロジェクトが控える今、AKTIOの関西市場をどう捉えていますか？」

高速道路や各私鉄の延伸工事、大阪を中心とした都市エリアの再開発工事など関西エリアにはチャンスが広がっていると感じます。その中で、やはり、2025年大阪・関西万博の建設は関西支店のメインターゲットといえるでしょう。当プロジェクトは大規模なものとしては2005年の愛知万博以来20年ぶり、大阪としては1970年以来、55年ぶりの万博です。大阪を、日本を盛り上げ、またレガシーとなる工事案件として総力を挙げて取り組んでいます。さらに、大阪IRが2029年の開業に向けて正式に決定されました。初期投資額1兆9,000億円ともいわれる一大プロジェクトです。2021年に南港に開設した大阪DLセンター等をフル活用し、関西支店所員一丸となって万全の体制で攻略に取り組めます。

「AKTIOの設備投資が生かされる、とかが近づいていますね。」

そうですね。関西テクノパーク統括工場と大阪DLセンターは今後、大型プロジェクトにおいて重要な役割を担います。

私が関西支店長になってからの大きな取り組みの1つが2017年の関西テクノパーク統括工場の開設でした。当

時の関西支店は土木現場偏重で、大型の建築案件には対応することができませんでした。その要因としては建築現場での主要商品となる、室内系高所作業車の大幅な不足。今後の都市部再開発といった市場の動向を見据え、早急に体制を整えるため、室内系高所作業車や建材商品をメインに取り扱う関西テクノパーク統括工場を開設したのです。この取り組みが功を奏し、現在では梅田3丁目計画等のどんな大型現場でも自信を持って営業することができるようになりました。

関西テクノパーク統括工場は何よりもまず品質を重視しています。いくつもの工程、チエック体制を整え非常に高い品質基準を設けており、常に改善活動に取り組んでいます。その具体例に室内系高所作業車のケレン作業を自動化した「ドライアイスショットブラスト」があります。この装置はメーカーと我々が苦勞して作り上げた、関西テクノパークにしかない装置で、ロボットの先端に取り付けたノズルから圧縮した空気と一緒に粒状のドライアイスを吹き付けてケレン作業を自動で行うものとなります。水でも氷でもないので電気系統にも安心ですし、柔らかい物質なので機械の表面を傷めることもありません。また、すぐに気化してしまうので掃除の必要すらありません。これにより、従来は手作業で行っていた付着物のケレン作業を効率化することができました。私が新入社員の頃は、ケレン作業が一番つまらかった。大変なのです。高速回転したサンダーで機械一台一台のコンクリートの付着

が高まり、AKTIOファンが増えていくにつれて、社員に自信を持って言えます。また、社員にとっても働きやすい環境で、やりがいや喜びにつながっている自慢の施設です。



大型プロジェクトの取り組みにはどのようなものがありますか？

大型現場への社員常駐施策を行っています。現場の機械管理や発注業務、各種トラブル発生時の対応役としてお客様とAKTIOをつなぐ役割です。実際に工事現場での業務を経験することで、現場ではどのような流れで一日の業務を進めているのか、機械手配の方法やタイミング、またレンタルされた機械が実際にどのように使われているのかといったことを間近で学び吸収することができます。お客様との信頼関係を構築し、機械知識や提案力を高めることで、今後の人脈のプラスになっています。営業所に戻ってから他の社員に知識や経験を共有し、レベルアップにもつながっています。実際に現場常駐者の第一号である社員は現在、常

などを取りながら行うため、危険もあります。それがロボット化できたのは、昔の先輩方の大変な経験を踏まえて新しいものが生み出したということ。省人省力できることはどんどん進めていきたいと思っています。

また、検査作業においては機械の裏側の汚れや破損を簡単にチエックできる装置を開発しました。床に穴を掘って、中に向きのカメラを埋込んで制作したものです。この装置の上に機械を置くだけで、これまで労力を要していた機械の裏側のチエックをモニター画面で簡単に行うことが可能です。このように現状に満足せず、改善活動を繰り返すことで、常にお客様に安心・安全な商品をお届けすることが可能となっています。究極の目標である「ブレード」を目指し、今後



駐時代に築いたお客様との関係性とレンタルティング®の知見を生かし、所長代理職としてエース級の活躍を見せてくれています。その他、お客様の機械工場にも常駐社員を配置しています。主にタワークレーン等の商材において、事前の計画段階から参入し、施工要領・品質基準といったことを学ぶことで、当社の機械を安心して使用していただけるようになっています。また、現在は女性社員も1名、現場常駐者として大型プロジェクトに参画しています。女性の活躍が推進される建設業界において、このような経験をすることで、今後の関西支店を支える重要な人材として成長してくれることに大いに期待しています。

フロント業務についても、3年ほど前から積極的に女性の起用を考えています。取引先の建設会社でも女性チームが新設されていますし、そういったプロジェクトに対しこちらも女性を中心としたチームを作るなどの営業スタイルもきつと今後増えていくでしょう。年齢、性別を問わず、これまで気づくことができなかったニーズに目を向けてくれる人材を育てていきたいですね。

今後新たに挑戦してみたいことなどはありますか？

西日本支社としての強化項目はグループシナジーの強化、レンタルティング®の強化、DXの推進、ニッチ市場の開拓・M&Aの推進、人材の育成の5本柱です。また、各地にテクノパークを開設し、品質の向上、機械の生産体制を整えること、建設業界のみなら

大阪Dレセンターについてはいかがでしょうか？

2019年に大阪港湾局の土地入札があり参加しました。当時、大阪ベイエリアでは広域レンタルの同業他社は周辺の舞洲地区に拠点を構えていました。一方、当社は大正区に大阪営業所があるのみで、2025年大阪・関西万博、IR事業に対応するには心許ない状況。この土地を落札できるかどうかは正に、今後の関西支店の未来を占うものです。結果、万博会場まで5分という立地を勝ち取り、最新鋭の物流・営業・研究開発拠点を作り上げられたのは本当にAKTIOの未来にとって重要なことだと感じます。

大阪Dレセンターには関西支店だけでなく、各種専門機械を取り扱う事業部と配送事業を行う関連会社が入居しています。これにより、支店単体では立ち行かなかった難易度の高い事例や効率的な業務を行うことができます。具体的には道路機械事業部と共同で対応した、夢洲周辺の車両入退場監視システムやエンジンアリアリング事業部との大型トラックスケールの対応等です。また、新規案件に関しては逐一、事業部と情報を共有することで、迅速に客先のキーマンにアプローチし、提案営業を行うことができる体制を整えています。保有機械についてもこれまで各地に点在していた事業部の機械を1か所に集約、ご注文から現場納入まで、よりスピーディに納入可能となりました。

配送に関しては関連会社であるアクティオトランスポートの車両にすべてGPSを搭載しており、30秒ごとのリアルタイム更新で最新市場、新たな領域に恐れず参入していくこと。これらの取り組みを推進することで、2025年には西日本エリアで2,000億円の売上達成を目標としています。

その中でも、DXの推進は今後の建設業界、それを支える当社にとって重要項目です。先ほどご紹介した大阪Dレセンターの存在により、建設現場における無人貸出システムやドローンによる空輸配送といった夢への取り組みが加速しています。これは創業以来、当社が培ってきたお客様の困りごとを解決する、「レンタルティング」精神の結晶だと思います。まずはこれらの取り組みを表現させること、そして諸先輩方から受け継いできた「創造と革新の精神を若い社員たちに伝えることこそが、私がすべきことだと考えています。

関西は支店と事業部の結び付きが強く、関連会社も多くあり、グループシナジーを最大限活用できる、多くの仲間がいるということが最大の特長だと思います。このような環境は社員の働く意欲を高め、より魅力的な会社にしていくと信じています。また、それを受けて若い人たちが第一志望として、AKTIOで働きたいと言ってくれようかな会社になることを目指しています。

私は文系で営業として入社した後、現場で学び、先輩から学び、お客様から学び、周囲の人に助けられながら専門的な知識を身につけることができました。大阪に来てからは会社の知名度がないところからのスタート

配送状況を可視化。より効率的な配送を実現し、お客様をお待たせすることなく、現場に商品をお届けできます。保有機械に関しては1週間に2度、定期便として関西支店圏内24か所の営業所に配送しており、各営業所においても、より迅速に商品をお届けすることができるようになりました。



大阪Dレセンター、関西テクノパークともに共通して言えることとして、お客様に「見ていただける工場であるということ。通常レンタル会社の工場は、お客様にお見せできるよう運用されていません。AKTIOでは、最新の設備体制をもって、工夫を凝らし、日々お客様のためにより良いサービスに向けて取り組んでいるんだということ」を工場見学を通じて知っていただけました。信頼感

を経験し、震災発生後は復興を目指し地域企業と「丸」となって取り組んだ、そこからお客様との信頼関係を築くことができ、当社は「社会貢献できる事業を行っているんだ」という思いを強く抱くようになりました。普段の仕事以上にお客様に「ありがとう」と言ってもらえる仕事をすることができて、嬉しい気持ちと共に愛社精神も芽生えたのです。台風などの自然災害時にも私たちの仕事はたくさんの人を支えることができるし、社内も一致団結して、献身的な姿勢で業務に取り組むことができる。これがAKTIOのDNAなのかと感じることが多々ありました。AKTIOには学びたい人をサポートしてくれる土壌がある。若手社員には興味があること、どんなにチャレンジしてほしいと思いますね。

私のモットーでもある「仕事は楽しく、遊びは真剣に」をテーマに、今後も社員一丸となって「より魅力的な会社にする」という目標に向けて取り組んでいきたいと思っています。



“みちの達人”ワールド開発工業が培ってきた技術・工法。



アスファルトコンクリート舗装

・碎石マスチック舗装

粗骨材のかみ合わせとアスファルトモルタルの充填効果により、耐流動性・耐摩耗性・水密性・すべり抵抗性・疲労破壊抵抗性の高い舗装を構築する。

・大粒径アスファルト舗装

骨材のかみ合わせにより、耐流動性・耐摩耗性に優れた工法。シックリフト工法との併用で一層の施工厚を厚くすることができるため、施工の省力化と交通規制時間の短縮が可能に。



セメントコンクリート舗装

・スリップフォーム工法

同一断面形状の連続したコンクリート構造物を、型枠を設置しないで連続的に打設する工法。型枠を省略することで省力化とコストダウンが可能に。

・転圧コンクリート舗装

通常のコンクリート舗装よりも乾燥収縮が少なく強度発現が早いいため、工期短縮や交通規制時間の短縮が可能となる工法。

CSPI-EXPO 2023でも注目！ 最先端技術を活用した新しい工法を続々と開発。

■生産性と精度を向上させた

新しい路面切削マシンコントロールシステム

舗装修繕工事において、従来からある路面切削の一般的な工法は、切削機のアジャストマンが路面にマーキングした切削厚を参照しながら手で操作するというもの。これに対して開発した新しい路面切削マシンコントロールシステムは、設計データに独自のノウハウを組み入れ、GNSSの位置情報によりリアルタイムで切削厚を演算・自動制御する。今までのTSによるマシンコントロールに比べても生産性と精度を大幅に向上させた。加えてアジャストマンは煩雑な操作から解放され、周囲に目が行き届き安全性も向上する。



■フォームドアスファルトを使用した「路上路盤再生工法」

SDGsの観点からも注目されている「路上路盤再生工法」。路上において既設アスファルト混合物を現位置で破碎し、同時にこれにセメントや瀝青材料等の安定材と既設粒状路盤材とともに混合、転圧して、新たに安定処理路盤を構築するものである。ワールド開発工業では液体状のアスファルトに微量の水を添加し泡状のフォームドアスファルトを使用する。常温で舗装のリサイクルが可能になり、温室効果ガスの発生を抑制できる。天然資源の100%リサイクルが可能で、持続可能な社会インフラ整備に貢献する。



ワールド開発工業株式会社

常に時代のニーズを先取りし、 道路舗装のプロとして極めた技術を世界へ。

ワールド開発工業は1970年の設立以来、道路工事を主に国内外で事業を拡げ、アジア・アフリカ・大洋州など世界20か国以上で道路舗装工事を行っている。国内では高速道路や国道などの主要道路、空港の滑走路などを施工し、海外ではODA事業などの大型インフラ整備プロジェクトなどを担い、優れた技術力と重機保有台数を背景に、社会インフラの整備に対応する道路舗装のプロフェッショナル集団である。世界中の「道」を支えるべく、経験豊富な人材、道路工用機械の保有数、国内外での施工実績という総合力を強みに、ワールド開発工業ならではのSDGsに取り組み、さらなる発展を目指す。

会社名：ワールド開発工業株式会社
本社所在地：〒381-0101 長野県長野市若穂綿内7484
設立：1970年
TEL：026-282-3671
FAX：026-282-5803
従業員数：295人 ※2022年12月現在
事業拠点数：本社 支店1店舗 営業所7店舗
海外事業所6店舗

400台を超える建設機械、100人を超える技術資格者。 ワールド開発工業の強みと事業内容。

舗装工事のすべてをこなす 「総合力」

機械施工、研究・品質管理試験、3次元測量、ICT施工など、道路工事のすべてを自社で担当することができる。現場の問題を解決する新たな工法やアスファルト材料の研究・開発も自社で行う。



整備体制も万全、 国内随一の舗装機械保有数

道路工事に関する大型の建設機械は400台以上、小型の機械まで含めると約2,000台を保有。傷んだアスファルトの表面を削り取る路面切削機、品質の良いアスファルト舗装のために必要なアスファルトフィニッシャーなど、必要な重機をすぐに揃えられる対応力も実績につながっている。



世界20か国以上の施工実績

アフリカ、アジアなどでのODA事業も担う。何も無い平原に道路を作っていき新設工事もあり、日本から現地へ数名派遣、それ以外は海外の熟練技術者と現地スタッフにより工事を進めていく。これまで日本の舗装工事で培った多くの経験から他社に比べノウハウが多いのも特徴だ。



来場者の目を引く新商品が続々! AKTIOが誇る技術を一堂に 建設・測量生産性向上展 CSPI-EXPO

2023年5月24日から26日の3日間、幕張メッセ(千葉県美浜区)にて第5回建設・測量生産性向上展(CSPI-EXPO 2023)が行われた。建設DXを実現する最先端のデジタル技術や建設機械、ロボットなどが一堂に集結し、普段なかなか見ることができない実機のデモンストレーションなどを間近で体験できる大規模な展示会として、402社約2,200ブースが出展。AKTIOは屋外・屋内の2か所に過去最大のブースを設置、昨年同様ライブ中継も実施した。会期中のAKTIOブースへの来場者は約16,000名と大盛況。30種類以上に及んだ最先端の展示製品の一部をここで紹介する。



現場環境や業務効率の改善に貢献する最先端の製品を展示

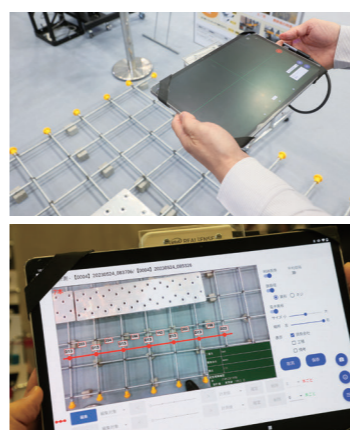
■トータルステーション自動墨出しシステムレイアウトツール PLT300

通常2、3名で行う墨出し作業がワンマンで可能となり、現場での省力化を実現する自動墨出しシステム。専用タブレットで操作が簡単な上に、1人で素早く、正確な墨出し作業ができる。専門知識のない作業員でもすぐに作業を行うことができ、そのポイント。



■GeoMation 鉄筋出来形自動検測システム

デブスカメラを搭載したスマホやタブレットで撮影するだけで、鉄筋間隔の計測および帳票作成までを自動出力できる。特許出願中の独自技術で、配筋状況を3次元的に把握でき、約3分の1も省力化が可能に。



■重量物吸着搬送機械 グラスワーカー

建設工事や設置工事の壁面ボードや大型のガラスを設置する際に使用する、持つ、運ぶ、設置の三役をこなす新タイプの自走式マニピュレータ。吸盤でガラスや壁材を吸着し窓枠や壁面にはめ込む。ブームの上げ下げ、伸縮、旋回、吸着部分の水平移動と、はめ込む際の微調整が容易。



■風車建設用タワークレーン

風車への支えや基礎工事が不要で、クレーンの解体、組み立て日数を5日程程度に短縮することができる大型陸上風車建設用のタワークレーン。クレーンの最大作業高さは130m、最大定格荷重は95tとなり、4MWクラスの大型風車を建設することが可能。



■オフグリッドシステム搭載 移動オフィスカー/マイクロバス仕様

ソーラーパネル・リチウムイオンバッテリーを搭載。4人同時に就寝でき、トイレ、冷蔵庫、電子レンジ等も完備。簡単にベッドとお座敷の仕様変更もできる。NEXCO関連会社のご要望により製作し、高速道路現場において夏場は熱中症対策、冬場は雪氷対策基地として活躍中。災害対策車両としても活用可能。



■地下ピット自律点検用へビ型ロボット

地下ピットは天井が低く、区画間の移動には「人通り」と呼ばれる狭い通路を点検員が通過する必要がある。精神的・肉体的に負担の大きい地下ピットの点検に、点検ポイントを間違いないで進める二次元的機能、人通りの乗り越える三次元的機能を併せ持つ自律走行アルゴリズムを搭載したへビ型ロボット。大末建設と電気通信大学が共同開発したロボットで、AKTIOが商品化に向けて連携、サポートをしている。



■遠隔操作ロボ(犬型)

工場やプラント、トンネルや配管施設、工事現場などの巡回監視や画像操作作業などの利用が期待される、機敏な運動性能を持つ重量12kgの小型ロボット犬。超遠隔から直感的に操作でき、監視業務を効率化。将来的には監視員3名の仕事を1名+監視ロボ3台にするなど省人化が期待されている。



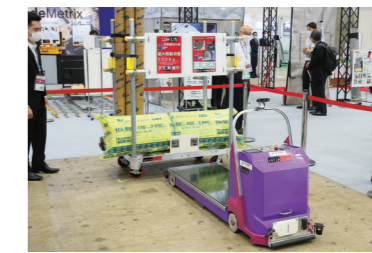
■後付け衝突軽減システム搭載 コンバインドローラ

「後付け衝突軽減システム」は、ローラの後方への走行時にAIカメラが人を検知し、自動でシリンダーが伸長する装置が可動、前進レバーを中立の位置に戻し、減速・停止をする制御装置。バック走行時の検知距離は8m(5mから減速開始)、検知幅は車体幅となっている。既存のローラに後付けできるものとして、AKTIOがオリジナルで開発。



■LOW LIFT(ローリフト)

リフター式の自動搬送台車。カメラで周囲の画像を撮影しマッピング、ティーチングにて登録した走行ルートに沿って、荷物に取り付けたQRコードを読み取り、位置を見極め、自動搬送する。前後左右旋回・斜め45度と全方向への移動が可能。現状、最大積載荷重500kgだが1tやエレベーターとの連動などを開発中である。



■BIMxDrone (ビム・クロス・ドローン)

最小クラスの自動飛行対応ドローン。ステレオカメラによるVisual SLAM技術とBIMで、衛星電波が届かない建物内でもドローンの安定飛行が実現。屋内の壁や障害物等の特徴をリアルタイムで捉えながら自己位置を把握し自動飛行を行う。建設現場や大型商業施設などの点検・巡視業務を人に代わって効率的に実行することができる。



■Cool Laser(クレーザー)

塗膜や金属のサビをレーザーで除去できるレーザー施工装置。表面上の1点に集光された高い強度のレーザービームを高速回転させながら円状に走査させ、表面の塗膜やサビを瞬間的に溶解、蒸散、熱破壊により除去する。これまでの塗替工事では塗膜除去、塩分除去、素地調整と工程別に装置が必要だったものが、Cool Laserは1台で完結することが可能。



AKTIO TOPICS. 4

世界最高峰の高出力レーザーでサビや塗膜などを除去

「CoolLaser®」デモの共同運営を開始

AKTIOは株式会社トヨコーと、世界最高峰の高出力レーザーでサビや塗膜などを除去する「CoolLaser®(クーレーザー®)」(以下、CoolLaser)のデモに関する共同運営を開始した。インフラの老朽化は世界を悩ませ、日本ではメンテナンス工事の担い手が年々減少する社会課題を抱えている。CoolLaserはレーザーヘッド先端部の集塵フードから粉塵を瞬時に吸引するため、非常にクリーンな作業環境を実現。サビの原因となる塩分も乾式で除去でき、防食便覧で推奨される80μmRzJIS以下の適度な表面粗度が得られる。これまでの塗替工事は塗膜除去(湿式等)、塩分除去(水洗い等)、素地調整(プラスト等)と各工程に別の装置が必要だが、CoolLaserは1台で完結する。また、速やかに次の塗装作業に移ることができるため、再劣化の原因となる塩分の再付着・戻りサビの抑制により塗替工事回数が低減され、人手不足解消にもつながる。



特長

- 1. 延命化 サビの原因となる塩分まで除去するため、サビが再発しづらい
- 2. 作業性の向上 軽い作業で、狭い場所や凹凸のある対象物にも効果がある
- 3. クリーン 除去対象物以外に廃棄物がないため、クリーンで環境にやさしい現場になる

AKTIO TOPICS. 2

商品コード:DFL 06251 001/DFL 11251 001/DFL 12003 001

建築現場でガラスや建材パネルの取り付けを効率化

重量物吸着搬送機械「グラスワーカー」をレンタル開始

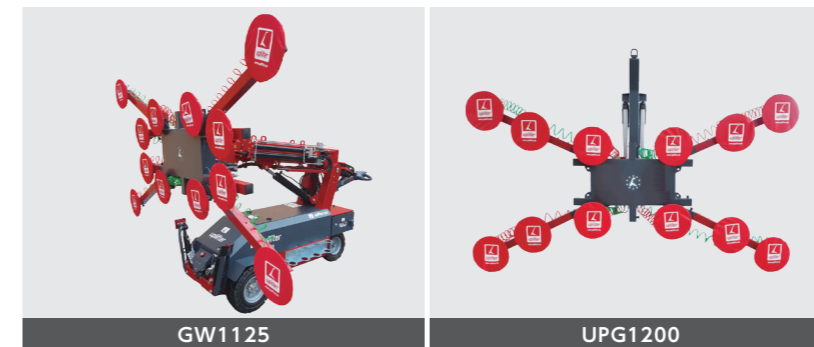
商品の詳細はこちら▶



AKTIOは、建築用の重量物吸着搬送機械「グラスワーカー」のレンタルを開始した。「グラスワーカー」は、建築現場においてガラスや建材パネルを吸盤で吸着し、そのまま窓枠や壁面にはめ込むことができる遠隔作業用機械。GW625/GW1125は自走式で、ブームの上げ下げ・伸縮・首振り(縦横左右)・旋回が可能。UPG1200は、クレーンなどで吊り上げながら作業が可能。いずれも、吸着したガラスや建材パネルを水平移動させて微調整しながらはめ込みができる。取り付け場所のすぐ近くでリモコン操作できるため、設置作業が効率的に行える。

特長

- 1 ガラスや建材パネルを吸盤で吸着し、そのまま窓枠や壁面にはめ込むことができる
- 2 リモコン操作のため、取り付け場所のすぐ近くで操作ができ、効率よく設置が可能
- 3 吸着している部分が水平移動するため、はめ込み際の微調整が可能



▶▶ AKTIO PEOPLE 輝け! AKTIO人

いきいきと働くAKTIOの仲間たちを紹介するこのコーナー。今回は「CSPI-EXPO 2023」の特別セミナーにて講師を務めた期待の若手3名をご紹介します。

人のつながりを大切に、自分なりの営業スタイルを目指したい

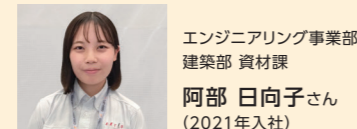


道路機械事業部 ICT推進部 ICTサポート課 山本 来実さん (2022年入社)

—主な業務内容は?—
支店・営業所の営業担当がお客様にICT機器をご案内する際に、専門的な内容をサポートする役割を担っています。建設会社様に訪問し、現場情報を伺い、どのICT機器・建機をどのシステムで導入するかを一緒に考え提案しています。その他、社内外でのセミナーの講師など、ICTの普及活動にも幅広く関わっています。

—仕事のやりがいや魅力を感じるのとはどんなとき?—
ICT機器を使用することにより、「作業員さんの負担を減らし、作業効率を上げることができた」「またAKTIOにお願いしたい」と言ってくれたときは、とてもうれしいです。

勉強会や展示会を通して多くの人と関わることがやりがい



エンジニアリング事業部 建築部 資材課 阿部 日向子さん (2021年入社)

—主な業務内容は?—
作業足場や建築機器を取り扱う部署に所属し、全国の各支店で行う社内向けの商品勉強会を行ったり、展示会で商品のご案内をしたり、社内外で商品説明を行っています。また、新商品の開発にも関わっています。

—担当した仕事で印象に残っていることは?—
自分が開発に携わった商品がレンタル品としてリリースされたことです。今回のCSPI-EXPOでも出展した「マジックボックス」という商品なのですが、展示会でも「組み立てが簡単で移動もしやすく良い」といったお声をいただき、とてもうれしかったです。

関わった現場のお客様からの「ありがとう」がモチベーション



エンジニアリング事業部 土木部 特需ポンプ課 村田 翔吾さん (2019年入社)

—主な業務内容は?—
22kW以上の水中ポンプや水処理機械、給排水関係機器を専門に扱う部署で営業を担当しています。主に各ゼネコン様の環境部や、土壌汚染対策工事、地下水浄化等を行っている会社様、トンネル工事現場、プラントの維持管理業の会社様など向けに計画段階より機器選定、図面作成等のご提案をしています。その他、支店・営業所の営業支援や、展示会、社内勉強会での講師を務めています。

—今後取り組みたいことは?—
同じ土木部内で取り扱う他の機械についての理解を深め、幅広く対応できるようになりたいです。

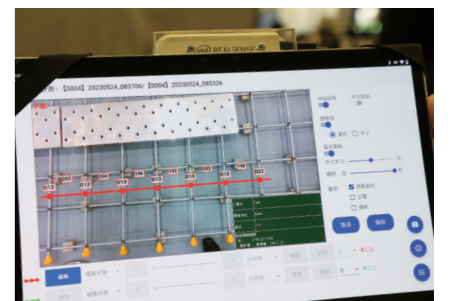
AKTIO TOPICS. 3

商品コード:RSG 00001 001

鉄筋の本数と間隔の計測を自動化

「GeoMation 鉄筋出来形自動検測システム」をレンタル開始

AKTIOは、鉄筋の本数・間隔を自動でリアルタイム計測できる「GeoMation 鉄筋出来形自動検測システム」のレンタルを開始した。特許出願中の技術で配筋状況を3次元的に把握でき、多段配置された鉄筋も正確に計測。デプスカメラが搭載された約490gと軽量のAndroidタブレットで撮影を行うため、準備や片づけの時間がかからず、帳票作成の時間も短縮されるため、従来方法の約3分の1まで省力化できる。

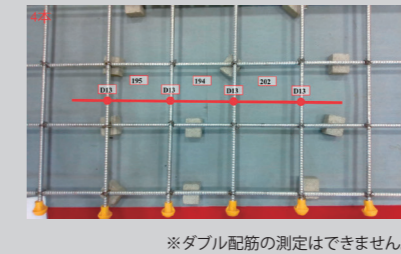


鉄筋出来形計測の自動化で、土木現場のDXを推進

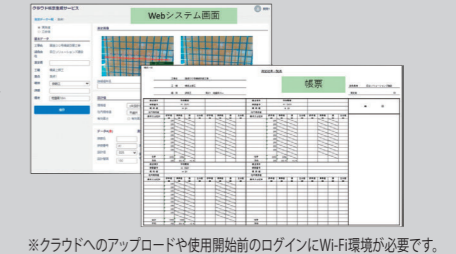
デプスカメラ&Androidタブレットを利用
デプスカメラ(奥行きの情報取得する深度センサーを内蔵したカメラ)で鉄筋を正面、垂直から撮影



鉄筋の本数・間隔をすぐに表示
電子黒板、継手長計測、かぶり間隔計測など、他にも役立つ機能を搭載



面倒な帳票作成も自動化
撮影画像と計測結果をインターネット上のクラウド帳票生成サービスへ連携可能



※「GeoMation 鉄筋出来形自動検測システム」は、株式会社日立ソリューションズの商品です。本技術は特許出願中(公開番号:特開2021-85838)。



今日も
ごあんぜんに
みんなで守る、みんなの安全

+ 今回のテーマ 風雨に対する備えを

日頃の安全対策に役立つ情報をご紹介します！
一人ひとりがしっかりと意識を持って、安全な職場を実現していきましょう。

夏～秋の台風、激しい風雨にご注意を

毎年、7～10月の豪雨や台風により建設現場でも被害が生じています。

高波による浸水、足場の倒壊、クレーンの逸走・倒壊など重大な被害をもたらす天候の荒れには注意が必要です。
河川流域や傾斜地などの工事はもちろん、現道上の工事においても仮設物や保安設備などについて
風水被害の予防に努めましょう。



強風時の注意ポイント

① 保安用品に注意

カラーコーンや看板などが転倒・飛散し接触の危険があります。重りやロープでくくりつけ、飛ばないようにしましょう。

② 高所作業に注意

地上では風が弱くても、高所では強風の場合があります。安全帯を確実につけて作業しましょう。

③ 火花に注意

溶接時の火花が風に乗って飛散し火災の原因になります。

④ クレーンに注意

風圧を大きく受けるので、転倒の可能性があります。しっかり固定しましょう。

⑤ 湾岸・河川に注意

強風により資機材が流出する可能性があります。強風が予想される場合は安全な場所に資機材を移動させましょう。

⑥ 強風の後に注意

足場等にズレや傾きが生じる恐れがあります。しっかりと確認しましょう。

⑦ 点検は複数で

点検途中で事故にあった場合、単独では連絡が取れません。点検は複数人で行いましょう。



大雨時の注意ポイント

① 排水設備の点検を

ゲリラ豪雨等では排水設備の許容量を超える恐れがあります。またゴミ等の堆積により本来の機能が発揮できない場合があります。

② 穴・段差の点検を

降雨により、バイクや自動車の事故の原因になります。

③ 濡れた通路に注意

濡れた覆工板は滑りやすくなります。手すりや保護具をつけて作業しましょう。

④ 緩んだ斜面に注意

切土法面、盛土等は降雨で崩れやすくなります。危険箇所がないか点検しましょう。

⑤ 機械の設置場所に注意

地盤の緩みで機械が転倒する危険があります。地盤がしっかりとした場所に設置しましょう。また河川の増水の可能性がある場合には、資機材を高所へ移動させましょう。

⑥ 大雨の後は点検を

地盤の緩みで崩落、陥没等思わぬ危険があります。

⑦ 点検巡視は複数で

点検途中で事故にあった場合、単独では連絡が取れません。点検は複数人で行いましょう。



特に気をつけたい、 墜落・転落災害防止対策

① 崖や斜面上での作業にあたっては、保護帽(墜落時保護用)の着用を徹底すること。親綱・墜落制止用器具等を使用し、墜落・転落災害防止のための措置を講じること。

② 安全衛生教育を実施するとともに、当日のミーティング等においても①について周知徹底を図る。

③ 河川での作業にあたっては、河川への転落等による溺れ災害を防止するため、必要に応じて、ライフジャケットの着用等の対策を検討すること。



異常気象時に 遵守すべき事項

① 天気予報等で異常気象等の発表がある場合には作業中止を含めて作業予定を検討しておくこと。

② 工事責任者は必要に応じて2名以上を構成員とする警戒班を出動させて巡回点検を実施すること。

③ 警戒員は気象の急変及び非常事態に注意し、工事責任者との連絡を適宜行い、周辺の状況把握に努めること。

④ 警戒及び注意報の解除後に作業を再開する前には、工事現場の地盤の緩み、崩壊・陥没等の危険がないか入念に点検すること。

労働安全衛生規則第522条では悪天候時の作業中止基準を定めていますが、工事現場周辺及び広域の気象に気を配り、危険を察知した場合には、基準内であっても気象の状況に応じて警戒・点検・作業中止等を実施し、安全の確保に努めましょう。



編集後記

先日、ビジネスコンテストのお仕事で出会った大学生が高校時代に起業した会社の取材で宮城県の七ヶ浜町へ行ってきました。皇室献上海苔になるほどおいしい「七ヶ浜海苔」の卸・販売を行う会社で、七ヶ浜海苔の認知を高め世界中の人達へ届けたいという思いで頑張っているとのこと。今回の取材をきっかけに改めて海苔について調べてみました。海苔の約3分の1は食物繊維で、海苔の食物繊維は、水にとけやすく穏やかな整腸作用を促す効果があるようです。そして、みかんに含まれる5～6倍の量のビタミンCが含まれており、美白効果があるといわれています。海苔にも旬があり、11月頃から摘み採りが始まり、4月中旬(一部の産地では5月上旬)まで続きます。11月頃各産地で

一番最初に摘み採られた海苔は「一番摘み」「初摘み」と呼ばれ、やわらかく、香り高い風味が特徴だそうです。ちなみに、「ノリ」という語はヌルヌルするという意味の「ヌラ」が訛ったものといわれています。平安時代には「紫菜」と書いて「ノリ」と呼んでいましたが、その後地方により呼び名が変わり、江戸時代に現在の「海苔」と呼ばれるようになりました。海苔のことを調べてみて、ますます海苔が好きになりました。今まで以上にいろいろな食べ方を試して、海苔のおいしさを味わいたいなと思いました。

広報部 成澤

*七ヶ浜海苔の取材記事はオウンドメディア「アクティオノート」に掲載予定です。note.aktio.co.jp



今号の表紙写真

お客様への魅力的な提案や新しい技術の発信地である大阪DLセンター。今号の表紙にはその印象的な姿を用いました。関西地域のさらなる発展を支える同センターや関西テクノパーク統括工場の今後の展望についてお伝えしている、今号の特集をぜひご覧ください。